

座長：射場 浩介（札幌医科大学 運動器抗加齢医学）

高木 岳彦（国立成育医療研究センター 整形外科）

**SY4-1 母指多指症の形態異常に関する二つの法則**

Two rules associated with morphological abnormalities in thumb polydactyly

齊藤 晋, 牧野 愛子, 山中 浩気, 森本 尚樹

京都大学 大学院医学研究科形成外科

母指多指症の形態は多様であり、変形リスクは異なる。例えば豆状の浮遊型すら骨軸不整がある。同一形態の母指多指症に限定して術後成績を評価することにより、最適な術式を知ることができる。演者は母指多指症の形態バリエーションに関する二つの法則を発見した。一つは内在筋異常に関する法則、もう一つは骨格形態に関する「重複領域」概念である。二つの法則を用いて、母指多指症の形態と変形リスクを説明することができる。

**SY4-2 母指指尖部再建のための動脈皮弁を用いた一工夫**

The challenge to polydactyly of the thumb with an arterial flap

三浦 孝行, 鳥谷部 荘八, 小曾根 英, 岡田 誉元

仙台医療センター 形成外科手外科

動脈皮弁による母指多指症指尖部再建は難易度が高く、手技が煩雑、時間もかかる非常に困難な術式であるが、指尖部のボリュームを増し、母指独特のフォルムを再建することには非常に有用な方法である。合併症として瘢痕拘縮やtrap door変形をきたすためデザインの配慮が必要である。近年では二分併合法にも応用しており、当院における美しく機能的な母指再建への挑戦について報告する。

**SY4-3 母指多指症手術における関節軟骨処置の一工夫**

Arthrography for surgical treatment of thumb polydactyly

花香 恵<sup>1,2</sup>, 齋藤 憲<sup>1,2</sup>, 高島 健一<sup>1,2</sup>, 射場 浩介<sup>1,2</sup><sup>1</sup>札幌医科大学 整形外科, <sup>2</sup>札幌医科大学 運動器抗加齢医学講座

母指多指症は手の先天異常として頻度が高く治療成績について多くの報告を認める。再手術は4型や末節収束型、三指節母指などに多いとされる。手術は、原則として低形成の母指を切断し、短母指外転筋移行、側副靭帯再建を行う。当院では、2006年から2型、4型、6型に対して術中に関節造影検査を行い、手術方法確認の参考としている。関節造影手技や造影所見に基づいた手術手技を紹介し、術後10年以上の長期成績についても報告する。

**SY4-4 母指多指症～良好な母指再建のための一工夫～**

Thumb polydactyly～ Ingenuity for reconstruction of functionality and appearance

花香 直美, 佐竹 寛史, 丸山 真博, 仁藤 敏哉, 高木 理彰

山形大学 整形外科

母指多指症治療の原則は低形成側や機能障害の強い側を切除し、三指節母指があれば、三指節側を切除する。末節型、基節骨型、中手骨型、橈側偏位型、それぞれについて型別の治療原則を述べ、当科の治療工夫を報告する。

---

## **SY4-5 母指多指症における当院での初回手術の工夫**

Surgical strategies for radial polydactyly in our institute

稲葉 尚人<sup>1,3</sup>, 高木 岳彦<sup>1</sup>, 関 敦仁<sup>1</sup>, 武谷 博明<sup>1</sup>, 林 健太郎<sup>1</sup>, 阿南 揚子<sup>1</sup>, 別所 祐貴<sup>1</sup>,  
江口 佳孝<sup>1</sup>, 高山 真一郎<sup>2</sup>

<sup>1</sup>国立成育医療研究センター整形外科, <sup>2</sup>島田療育センター整形外科, <sup>3</sup>有隣厚生会富士病院整形外科

母指多指症は、手の先天異常の中で最も頻度が高いが、様々な形態があり、それぞれに適切な治療戦略を立てる必要がある。長期経過において変形、機能障害を生じ、再手術を要する症例も少なくない。当科では初回手術を工夫して術後変形の回避に努めている。これまで経験した症例を踏まえて、各形態についてのポイントを詳しく述べていきたい。

---

## **SY4-6 母指多指症の中期成績と二次手術**

Radial polydactyly - Mid-term surgical outcomes and revision surgery

洪 淑貴<sup>1</sup>, 大塚 純子<sup>1</sup>, 堀井 恵美子<sup>2</sup>

<sup>1</sup>日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 整形外科, <sup>2</sup>関西医科大学整形外科

母指多指症初回手術を施行し、5歳以降に直接検診し得た351手を術前の分岐レベル(末節・基節・中手型)で分類し、基節型を骨形態に応じて細分し、各群の最終成績と二次手術率を調査した。全体では56手(16%)で平均8.0歳時に二次手術を施行した。尺側指のアラインメントが不良な基節分岐型および中手分岐型では、末節型や尺側指のアラインメントが良好な基節型より成績が劣り、二次手術率が高かった。